

パネル 2013年度サンファン館での企画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東北学院大学文化財レスキュー班 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/361

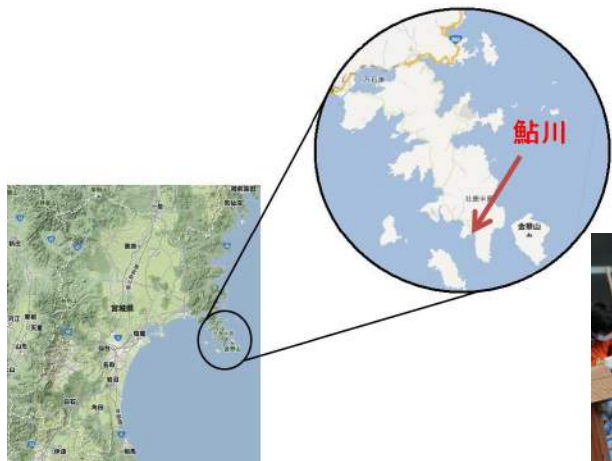
文化財レスキュー 被災した文化財を救う

◎ 一次洗浄と二次洗浄

現在行われている文化財レスキューは、二次洗浄という段階に突入しています。二次洗浄は、一次洗浄である程度汚れやカビを落とした資料を、カルテや活動日誌をもとに管理し、現在の状態を維持するための作業です。具体的には、カルテに記録されたカビや塩害の発生履歴などの情報と、実際の資料の状態をもとに、ブラッシングやカビ取りといったクリーニングの方法を選択しています。一次洗浄では水洗いも行いましたが、資料の状態をふまえて、二次洗浄では行っていません。

東北学院大学博物館で一時保管している資料は、牡鹿半島で収集された「石巻市鮎川収蔵庫」の民俗資料です。一次洗浄では、泥を被ったそれら資料を水洗いするなどのクリーニングによって、資料の状態をできるだけ安定させることを作業の目的としました。

一方の二次洗浄では、大まかな汚れが落とされているため、一見成果がわかりにくい作業が中心です。しかし、一度洗浄したからといってそのまま放置してしまうと、カビや塩害が再び発生して資料を傷めることになってしまいます。文化財レスキューは、助け出した資料をコレクションするのではなく、元の場所に返すことが最終的な目的であり、その目的を達成するためにも、地道にクリーニングを続けていく必要があるのです。



石巻市鮎川



大学での作業風景

◎ 実際の活動

収蔵庫には資料が膨大にあるため、風通しがあまり良くなく、カビの再発などの可能性があります。それを防ぐためにクリーニングを行っているのですが、これはなかなか骨が折れる作業でもあります。

現在は、カビの再発や資料の劣化を防ぐために、劣化の原因となる汚れを落とす作業を行っています。一次洗浄を行った成果もあり、カビが再発してしまった資料は少ないですが、泥が付着している資料はたくさんあります。中には、ふやけてしまった紙類や繊維が崩壊している木材など資料の材質により壊れやすいものもあり、慎重に作業を進める必要があります。



蛾の繭取り



蛾の繭

クリーニングを行う際には、ホコリが飛散するためマスクは必需品です。また、資料を収蔵庫から作業場へ運び出す際に、資料から飛び出した釘や木のささくれでけがをしまう可能性もあるため、上下ともに露出の少ない服装や軍手も着用しなければなりません。気温が低い時期ならまだ良いのですが、気温が高い時期になるとこの服装でいるだけでも体力を消耗することになります。

二次洗浄でクリーニングした資料の中でも、特に大変だったのが大きな木製の臼です。とても重いので運搬にもてこずりましたが、いざ状態を確認してみると、隙間という隙間に蛾の繭がびっしりと埋まっていました。もちろんそのまま放置しておくことはできないので、竹串とピンセットを使い、繭をひとつひとつ取り除きました。

このように、レスキューされた資料の状態を保つことは容易ではありません。それでも、資料を無事に返すことができる日まで、活動を続けていきたいと考えています。